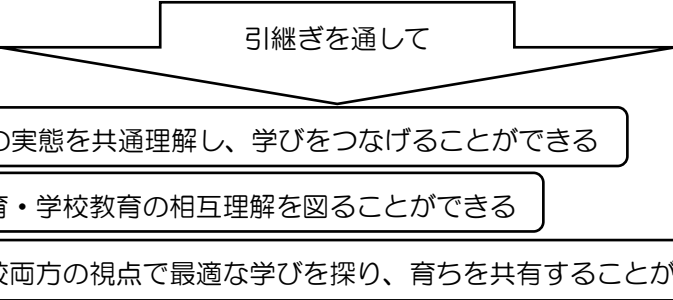


## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	渡島管内 函館市
取組事項（テーマ）	育ちの継続を目指した年間を通した引継ぎ
地域の実情と取組のねらい	<p>令和3年度から地域の小・中学校4校が統合し、義務教育学校が園の隣に開校され、園児のほとんどが就学する。</p> <p>「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力」を踏まえた連携、接続を円滑に進めるなど、学びの継続につなげていく必要がある。</p>
取組内容	<p><b>【積み重ねる引継ぎ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる子（その子の特徴、育ちの様子、生活の背景等）については、低年齢の早い段階から、繰り返し丁寧に引継ぎを行う。</li> </ul> <p><b>【入学迄の引継ぎ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児の実態を、年度当初に学校へ伝え、入学までに育てたい力を学校と園が協力し、共に考える。 →学校からの幼児に合わせたアドバイスを参考に生きる力の基礎を育む。</li> <li>・義務教育学校の先生が、年長児の姿を見て実態を把握できるように、児童と幼児の交流時など様々な場面を公開している。 →幼児の育ちの状況を学校の先生と園長が話し合い共有する。</li> <li>・通年で、いつでも情報交換が出来る環境をつくる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校は、先生方が交代で園に出向く体制を整え、幼児教育について学ぶことができるようにする。</li> <li>②実際に子どもの様子を見てほしい時は、学校に対してすぐに来園を要請し、様子や情報を園と学校で共有できるようにする。</li> </ol> </li> <li>・就学前に、市の引継ぎシートや指導要録を活用して、引継ぎを行う。</li> </ul> <p><b>【保護者の引継ぎ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長学級懇談時義務教育学校の先生をゲストティーチャーに迎え、直接保護者へ学校生活や入学へ向けての心構えや準備を伝え、不安の軽減に繋げる。</li> </ul> <p><b>【継続する引継ぎ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の成長を促すために、義務教育学校で幼稚園の先生が授業をしたり、入学した子ども達の様子を話し合う機会を設けたりするなど、園と学校で継続的に交流を行う。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>引継ぎを通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの実態を共通理解し、学びをつなげることができる</li> <li>幼児教育・学校教育の相互理解を図ることができる</li> <li>園、学校両方の視点で最適な学びを探り、育ちを共有することができる</li> </ul> </div>
成果・課題	<p><b>[成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでも子どもを見合い、話し合える双方の環境づくりと連携が、幼児の実態に即した引継ぎとなっている。</li> <li>・連携（引継ぎ）を計画的、継続的に行い、学びの連続性に繋げることで、一人一人の幼児、保護者が安心して入学を迎えている。</li> </ul> <p><b>[課題]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園と学校が双方の教育をさらに研修するなどして、どのような環境や援助が、どのような子どもの育ちに繋がるかを明らかにし、一人一人の子ども力となるような引継ぎを日常的に行っていく必要がある。</li> </ul>





【保育参観の様子】



【年長学級懇談時の様子】

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について





管内・市町村	渡島管内 函館市
取組事項（テーマ）	接続期カリキュラムの充実に向けた幼小合同研修の取組
地域の実情と取組のねらい	<p>これまで、接続期カリキュラムについての交流がなされておらず、小学校においては幼児教育の理解に乏しい状況であった。</p> <p>幼児教育についての理解を深め、幼児期の育ちと学びを生かしたスタートカリキュラムが編成されているかを検証し、改善に向けた視点を明らかにする。</p>
取組内容	<p>幼児期の育ちや幼児教育の基本について理解を深めるため、校区内の認定こども園と相互に保育や授業を見合ったり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する演習を行ったり、認定こども園で保育補助を体験したりするなどの合同研修を行った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【令和3年度幼小合同研修の概要】（予定も含む）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>小学校におけるプレ校内研修</b></p> <p>日時 ・ 7月20日（火）14:00～15:30</p> <p>内容 ・ 幼児教育施設の種類と仕組み ・ 幼児教育の概要（5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>第1回幼小合同研修</b></p> <p>日時 ・ 7月27日（火）9:00～12:00、 13:20～14:30</p> <p>内容 ・ 認定こども園年長組の保育参観 ・ 協議・演習「幼小接続期におけるカリキュラムの編成について」</p> <div style="text-align: right;">  <p>【スタートカリキュラムについて説明している様子】</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>第2回幼小合同研修</b></p> <p>日時 ・ 11月1日（月）10:15～11:50、 14:15～16:00</p> <p>内容 ・ 小学校低学年の授業参観 ・ 演習・協議「小学校の授業参観から捉える子どもの育ちについて」</p> <div style="text-align: right;">  <p>【グループで話し合った概要を発表している様子】</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>第3回幼小合同研修</b> 冬季休業中に小学校教員によるこども園での保育体験</p> <p><b>第4回幼小合同研修</b> 2月下旬に接続期カリキュラムの改善に向けた協議</p> </div>
取組に主として携わった者(所属/人数)	小学校(校長、教頭、教諭、養護教諭)、認定こども園(園長、副園長、保育教諭)、北海道教育大学函館校(准教授1名)、計15名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教育と小学校教育の双方で理解が進み、系統性を意識した教育・保育の充実につながった。</li> <li>・ これまで個別に作成していたアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについての改善の視点が、「円滑な接続が図られるよう幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸にすることについての共通理解が図られた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校に複数の幼児教育施設の卒園生が入学してくることや、一つの幼児教育施設から複数の小学校に入学することから、連携を一つの学校と一つの幼児教育施設にとどめるのではなく、近隣の園や小学校に声を掛けるなど行い、地域全体に幼小合同研修を広げていく必要がある。</li> </ul>

地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	渡島管内 鹿部町
取組事項（テーマ）	幼小交流授業
地域の実情と取組のねらい	<p>鹿部町は、町内に幼稚園1園、小学校1校、中学校1校を有し、ほとんどの園児が町内の小・中学校へ進学している。小学校生活の見通しを持たせ、小学校入学への不安を軽減し、小1プロブレムの解消を目的として、年間を通じて、年長児の運動会競技への参加、第1学年との交流授業、1日体験等といった幼小連携事業を実施している。</p>
取組内容	<p><b>【年長児の小学校訪問】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年長児は、小学校を訪問し、第1学年のはじめの言葉や、けんぱんハーモニカの合奏「きらきらぼし」を聞いたり、第1学年の実施する「秋まつり」に参加したりした。</li> <li>年長児は、「秋まつり」で、第1学年代表者の説明を聞いた後、第1学年の準備したごほうびを入れる紙袋をもらい、5グループに分かれて、的当て、けん玉、こま、やしろべえ、マラカスの5つのお店をまわって「秋まつり」を楽しんだ。</li> <li>第1学年は、年長児が安心して楽しく活動することができるように、年長児に遊び方を教えたり、やさしく声を掛けたり、お店を移動する時に誘導したりした。</li> <li>年長児は、すべてのお店をまわって、ごほうびをもらい、終わりの言葉を聞いた後、お礼の言葉を伝えた。</li> <li>幼稚園と小学校の教員は、年長児と児童の実態に応じて、互いに親しみをもって交流できるように配慮した。</li> </ul> <div data-bbox="1029 622 1417 869" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">【交流授業の様子】</p> <div data-bbox="1029 913 1417 1160" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">【けん玉のコツを教えてもらったよ】</p> <div data-bbox="1029 1227 1417 1473" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">【やしろべえ上手にできたよ】</p>
取組に主として携わった者(所属/人数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>町教育委員会(指導主事)</li> <li>小学校(校長、教務主任、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任、第1学年学級担任、第1学年教育支援員)</li> <li>幼稚園(園長、係長、5歳児担任、5歳児補助教諭)</li> </ul> <p style="text-align: right;">計11名</p>
成果・課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年長児は、昨年度まで一緒に園生活を過ごしていた第1学年との交流ということで、親しみを持ち、楽しく活動に参加することができた。</li> <li>年長児は、小学校での活動を実際に経験することで、小学校という場へ親しみを持つことができた。また、小学校生活のイメージを持つことができたことから、進学に対して安心感を持ち、小学校入学への期待を膨らませることができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校と幼稚園で、さらに相互理解を促進するため、スタートカリキュラム等について、幼稚園と小学校の教員が互いに学び合い、共同研究を深めていく必要がある。</li> </ul>




地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について



管内・市町村	渡島管内 森町
取組事項（テーマ）	入学が楽しみになる体験入学
地域の実情と取組のねらい	<p>ほとんどの子どもが、同じ保育所から小学校へ入学するため、人的な環境の変化は少ないが、その他の環境が大きく変わることに関して、楽しみよりも不安を強く感じる子どもがいる。</p> <p>そこで、次の2つのねらいで体験入学を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校生活への導入として実施し、少しでも不安を取り除くこと</li> <li>・新入生にとって、顔見知りである前年度の年長の子どもに、校内を案内してもらったり、ともに活動したりすることで、小学校生活での成長にあこがれと期待を持たせること</li> </ul>
取組内容	<p>【第1学年と新入生の交流】</p> <p>入学に係る保護者説明会を行っている時間に、第1学年と新入学予定の園児との交流を行っている。</p> <p>令和2年度は、第1学年が校舎にある施設の説明を行った。説明しながらゲームを行い、小学校に関する新入学予定の園児の興味・関心を高めた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【新入生を教室に案内している様子】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【教室で釣りゲームを一緒にしている様子】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>【体育館を案内したあと鬼ごっこで交流】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【音楽室を案内し、楽器に触れている様子】</p> </div> </div>
取組に主として携わった者(所属/人数)	<p>小学校(校長、教頭、教務主任、第1学年学級担任)</p> <p>保護者(昨年度児童数) 計8名</p>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年の案内で校舎の様子を知るとともに、顔見知りの前年度の年長の先輩の成長の様子を目にしたことで、入学後の新入生の不安が軽減された。</li> <li>・第1学年とゲームで交流したことで、学年が違う児童への親しみを持つことができ、入学後の安心感につながった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症のため実施できていない小学校職員と保育所職員等との交流・連携に係る取組を、工夫して実施する必要がある。</li> </ul>



地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	檜山管内 厚沢部町
取組事項（テーマ）	幼児と児童による交流会の開催
地域の実情と取組のねらい	<p>厚沢部町（町立幼保連携型認定こども園1園）では、町内の認定こども園のほか、他町にある認定こども園に通う幼児が小学校に入学することから、幼児と低学年児童が入学前に交流する場を年3回設けて、幼児が安心して小学校生活に入ることができることをねらいとする。</p>
取組内容	<p>幼児と児童が交流する機会として、小学校を会場に幼小交流会、生活科交流会、体験入学を実施している。</p> <p>&lt;幼小交流会 9月に実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼小交流会は幼児が小学校生活を知ることがねらいに実施している。具体的には、校内や第1学年の児童が学習している様子の見学、第1学年児童との交流を行っている。</li> </ul> <p>&lt;生活科交流会 11月に実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活科交流会は幼児が小学校生活に期待を持つことをねらいに実施している。具体的には、幼児が楽しめるような遊びを第1、2学年児童が用意し、交流を行っている。第1、2学年児童が身近にある物を使って遊びに使う物を工夫して作り、ルールを大切にしながら遊びを創り出す活動となった。</li> </ul>  <p>【生活科交流会の様子】</p> <p>&lt;体験入学 2月に実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験入学は入学を目前とした幼児が安心感を持つことをねらいに実施している。具体的には、小学校教員が教科等の学習や小学校の行事などについて、小学校で新たに取組む内容の紹介を行っている。</li> </ul>
取組に主として携わった者(所属/人数)	小学校（教頭、教員）、認定こども園（園長、職員）計8名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児は、小学校の様子を知り、児童と交流したことで小学校生活に安心感を持ち、小学校入学を楽しみにするようになった。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校入学に向けて幼児がより楽しんで主体的に児童と交流できるよう、小学校教員が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を通して、幼児が何をどのくらいできるのかについて理解を深める必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	檜山管内 せたな町
取組事項（テーマ）	幼児教育施設と小学校における情報交換
地域の実情と取組のねらい	<p>せたな町（町立幼保連携型認定こども園1園、町立保育所2園）では、新型コロナウイルス感染症の感染対策として幼児と児童の交流は休止中であり、保育教諭等と小学校教員の情報交換を通じて、幼児の実態や円滑な接続に向けて共有することをねらいとする。</p>
取組内容	<p>保育教諭等と小学校教員の情報交換として次の3つの機会を設けている。</p> <p>&lt;情報・意見の交換会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月、11月、2月の年3回、せたな町の小学校区ごとに保育教諭等と教員が集まり、幼小の円滑な連携・接続に向け幼児の実態や児童の成長に係る情報共有、意見交換を実施している。</li> </ul> <p>&lt;配慮が必要な幼児の実態把握&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校入学に向けて配慮することで安心して学校生活を送ることができる幼児がいる場合は、町教育委員会職員や小学校教員が幼児教育施設に来園し、対象幼児の園での様子を参観したり、入学後の支援について協議したりしている。</li> </ul> <p>&lt;おたよりの交換&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児教育施設からは園だよりや年長組のクラスだよりを、小学校からは学校だよりや第1学年の通信を毎月交換し、行事や日常の活動の様子を共有している。</li> </ul> <div data-bbox="908 1055 1431 1516" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <h3 style="text-align: center;">キッズ体操教室</h3> <p>7月20日(火)にぶどう組・めろん組を対象に「キッズ体操教室」がありました。札幌からトレーニングパーク手音(たね)の山本先生が来園し、子どもたちに体を動かすことの楽しさを教えて下さいました。今回は体幹を鍛える要素を盛り込んで教えて下さいました。</p>  </div> <p style="text-align: center;">【小学校と交換している園だよりの抜粋】</p>
取組に主として携わった者(所属/人数)	<p>せたな町教育委員会（事務局次長、学校教育係職員、生涯学習指導主事、スクールアドバイザー）、せたな町保健福祉課（保健師）、認定こども園（保育教諭等）、小学校（特別支援教育コーディネーター）、中学校（特別支援教育コーディネーター 計7～8名</p>
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報交換の取組によって、保育教諭等が小学校の取組について理解を深めることができ、効果的な連携・接続を図ることにつながっている。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児と児童の交流再開を図る際に、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」やスタートカリキュラムの内容について保育教諭等と小学校教員が共有し、よりよい連携・接続の取組について検討する必要がある。</li> </ul>



## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	上川管内 士別市																																																																		
取組事項（テーマ）	幼児期の学びをつなげるスタートカリキュラムの編成・実施																																																																		
地域の実情と取組のねらい	<p>地域の保育所の幼児の多くが同一の小学校に入学することから、幼児教育と小学校教育をスムーズに移行し、小学校での学びを円滑に進めることができるよう、幼児教育施設と小学校が連携してスタートカリキュラムを作成し、子どもの学びをつなげることをねらいとする。</p>																																																																		
取組内容	<p>小学校では、幼児教育施設と小学校が連携し、先進的な取組を行っている上川管内の美瑛町の取組を参考として、スタートカリキュラムを編成した。</p> <div data-bbox="475 667 943 920" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・小学校では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を「安心」、「成長」、「自立」の観点で整理し、教員が幼児期の学びの芽生えと児童期の自覚的な学びの連続を理解した上で、スタートカリキュラムを実践している。</p> </div> <table border="1" data-bbox="970 636 1401 891" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td style="background-color: #FFC0CB;">安心</td> <td>③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑨言葉による伝え合い</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #FFFFE0;">成長</td> <td>①健康な心と体 ⑥思考力の芽生え ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #E0FFFF;">自立</td> <td>②自立心 ⑤社会生活との関わり ⑩豊かな感性と表現</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">【幼児教育とのつながり】</p> <p>・スタートカリキュラムの編成に当たっては、幼児教育施設の保育者と小学校の教員が協議をする場を設定し、「安心」、「成長」、「自立」の観点で、年長児の1～3月の保育内容及び小学校第1学年の4～7月の教育活動を整理し、幼児教育施設及び小学校それぞれで実践を進めている。</p> <table border="1" data-bbox="687 1010 1442 1429" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th colspan="3">アプローチカリキュラム</th> <th>つながり</th> <th>スタートカリキュラム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校に向けて生活リズムを整える</td> <td>小学校への期待感を持たせる</td> <td>卒業、入学に向けて心構えをもつ</td> <td>学びの概要</td> <td>新しい出会いの楽しさを通して、集団での新しい生活を楽しむ</td> </tr> <tr> <td>・園生活から小学校生活へ</td> <td>・小学校の雰囲気や体感させ学校に対する安心感をもたせる</td> <td>・卒業準備と心構え ・入学準備と心構え</td> <td>ねらい</td> <td>・学校に対する安心感 ・先生や友達と仲良く ・心の通い合い</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>2月</td> <td>3月</td> <td>時期</td> <td>4月頃</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">編成び一人遊び・長縄跳び(力を合わせる活動)</td> <td></td> <td>交通安全教室 1年生を迎える会</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">幼保小交流(へんきようだいすき・1日入学)</td> <td></td> <td>がっこうだいすき たのしいまいにち 安全な量下校(下校指導)</td> </tr> <tr> <td>ワーク・学習活動(鉛筆書き・速読・塗り絵・点読・手紙を書く・自分の名前)</td> <td>遊び活動(全身運動)・縄跳び</td> <td></td> <td></td> <td>入学式 身体測定 視力検査 たのしくあそぼう(遊具あそび)</td> </tr> <tr> <td>グループ活動(集団遊び(すごろく、カルタ、神経衰弱)・製作・実験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>わたしのなまえ</td> </tr> <tr> <td>リズム運動(遊びを通じた体力向上)・体操教室・マント運動・外遊び(スキー、そり遊び)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>せいかつかがはじまるよ</td> </tr> <tr> <td>1月より午睡時間なし(小学校生活リズムに合わせて)→お弁当の時間をずらす</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1年生になって</td> </tr> <tr> <td>年間を通した当番活動(清掃、おしほり配り、いただきますのあいさつ、出席ノート配り、絵本遊び)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>なかよしのき</td> </tr> <tr> <td>年間を通した製作活動(素材選びからの自由発想・課題)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>たのしいまいにち いくつかな</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">【幼児期のカリキュラムからスタートカリキュラムへ】</p> <p>・スタートカリキュラムは、「長期スパン」と「短期スパン」の2種類編成し、子ども一人一人の経験や幼児期の教育を踏まえたきめ細かな指導をすることにより、小学校6年間の学びの土台を築いている。</p> <p>・小学校に入学した子どもの保護者にスタートカリキュラムを配布し、入学当初の教育活動のねらいや内容等の周知を図っている。</p>	安心	③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑨言葉による伝え合い	成長	①健康な心と体 ⑥思考力の芽生え ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	自立	②自立心 ⑤社会生活との関わり ⑩豊かな感性と表現	アプローチカリキュラム			つながり	スタートカリキュラム	小学校に向けて生活リズムを整える	小学校への期待感を持たせる	卒業、入学に向けて心構えをもつ	学びの概要	新しい出会いの楽しさを通して、集団での新しい生活を楽しむ	・園生活から小学校生活へ	・小学校の雰囲気や体感させ学校に対する安心感をもたせる	・卒業準備と心構え ・入学準備と心構え	ねらい	・学校に対する安心感 ・先生や友達と仲良く ・心の通い合い	1月	2月	3月	時期	4月頃	編成び一人遊び・長縄跳び(力を合わせる活動)				交通安全教室 1年生を迎える会	幼保小交流(へんきようだいすき・1日入学)				がっこうだいすき たのしいまいにち 安全な量下校(下校指導)	ワーク・学習活動(鉛筆書き・速読・塗り絵・点読・手紙を書く・自分の名前)	遊び活動(全身運動)・縄跳び			入学式 身体測定 視力検査 たのしくあそぼう(遊具あそび)	グループ活動(集団遊び(すごろく、カルタ、神経衰弱)・製作・実験)				わたしのなまえ	リズム運動(遊びを通じた体力向上)・体操教室・マント運動・外遊び(スキー、そり遊び)				せいかつかがはじまるよ	1月より午睡時間なし(小学校生活リズムに合わせて)→お弁当の時間をずらす				1年生になって	年間を通した当番活動(清掃、おしほり配り、いただきますのあいさつ、出席ノート配り、絵本遊び)				なかよしのき	年間を通した製作活動(素材選びからの自由発想・課題)				たのしいまいにち いくつかな
安心	③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑨言葉による伝え合い																																																																		
成長	①健康な心と体 ⑥思考力の芽生え ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚																																																																		
自立	②自立心 ⑤社会生活との関わり ⑩豊かな感性と表現																																																																		
アプローチカリキュラム			つながり	スタートカリキュラム																																																															
小学校に向けて生活リズムを整える	小学校への期待感を持たせる	卒業、入学に向けて心構えをもつ	学びの概要	新しい出会いの楽しさを通して、集団での新しい生活を楽しむ																																																															
・園生活から小学校生活へ	・小学校の雰囲気や体感させ学校に対する安心感をもたせる	・卒業準備と心構え ・入学準備と心構え	ねらい	・学校に対する安心感 ・先生や友達と仲良く ・心の通い合い																																																															
1月	2月	3月	時期	4月頃																																																															
編成び一人遊び・長縄跳び(力を合わせる活動)				交通安全教室 1年生を迎える会																																																															
幼保小交流(へんきようだいすき・1日入学)				がっこうだいすき たのしいまいにち 安全な量下校(下校指導)																																																															
ワーク・学習活動(鉛筆書き・速読・塗り絵・点読・手紙を書く・自分の名前)	遊び活動(全身運動)・縄跳び			入学式 身体測定 視力検査 たのしくあそぼう(遊具あそび)																																																															
グループ活動(集団遊び(すごろく、カルタ、神経衰弱)・製作・実験)				わたしのなまえ																																																															
リズム運動(遊びを通じた体力向上)・体操教室・マント運動・外遊び(スキー、そり遊び)				せいかつかがはじまるよ																																																															
1月より午睡時間なし(小学校生活リズムに合わせて)→お弁当の時間をずらす				1年生になって																																																															
年間を通した当番活動(清掃、おしほり配り、いただきますのあいさつ、出席ノート配り、絵本遊び)				なかよしのき																																																															
年間を通した製作活動(素材選びからの自由発想・課題)				たのしいまいにち いくつかな																																																															
取組に主として携わった者(所属/人数)	小学校(教頭、教務主任、特別支援教育コーディネーター)、保育所(主任保育教諭)計4名																																																																		
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラムを編成するに当たり、幼児教育施設の保育者と小学校の教員が話し合いを行うことにより、それぞれの取組を共通認識することにつながり、一貫した指導を行うことができた。</li> <li>・幼児教育施設の保育者と小学校の教員が話し合う機会を設けたことにより、小学校の教員が幼児理解を深めることができ、入学した児童への円滑な指導を行うことができた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他園から入学する児童がいる年度があるため、他園との連携・接続に係る取組の在り方を今後検討していく必要がある。</li> </ul>																																																																		



## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	上川管内 美瑛町																																																																															
取組事項（テーマ）	幼児教育施設の保育者と小学校の教員による引継ぎ内容の検討																																																																															
地域の実情と取組のねらい	幼児教育施設と小学校が、個々の子どもの必要な情報を円滑に引き継ぎすることをねらいとしている。																																																																															
取組内容	<p>1 「幼保小部会」を開催した経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児教育施設から、「小学校への引継ぎ内容について整理をしたい。」との要望があり、本町のコーディネーター会議において、「幼保小部会」を開催し、各小学校の特別支援教育コーディネーター、通級指導教室担当教員及び幼児教育施設の保育者が、引継ぎ内容について協議を行った。</li> </ul> <p>2 「幼保小部会」における引継ぎ内容の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引継ぎ内容については、それぞれの子どもの実態によって異なるため、基本事項を確認した上で、以前から本町で使用していた「状態像フォーカスシート」の項目を整理し、それを基に引継ぎを行うこととした。</li> </ul> <div data-bbox="560 958 1374 1339" data-label="Table"> <p>幼児 経過観察幼児用 状態像フォーカス(学年の困り感把握のためのチェックシート)</p> <p>※学習の基礎となる力へついでに並び 2.お茶碗とお箸が持てる 3.数値(1から10まで)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属機関名</th> <th rowspan="2">名前</th> <th colspan="12">該当するものに○をつける</th> <th rowspan="2">併設</th> <th rowspan="2">所属機関所長</th> </tr> <tr> <th>学習</th> <th>注意・集中</th> <th>社会性</th> <th>運動</th> <th>視覚</th> <th>聴覚</th> <th>言語</th> <th>身体</th> <th>生活</th> <th>健康</th> <th>食生活</th> <th>家庭</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>【状態像フォーカスシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引継ぎ内容には、従来からある「文字への興味」や「注意・集中」など学習面に関することに加えて、「家庭背景」や「食事面での課題・配慮」など生活面に関することを追加した。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、以前に比べると幼児教育施設と小学校を相互に見学する機会が減少してしまいましたが、紙面による引継ぎだけでなく、子どもの様子を踏まえた引継ぎができるよう、関係機関で調整を行い、交流する機会を設定するよう「幼保小部会」において確認した。</li> </ul>	所属機関名	名前	該当するものに○をつける												併設	所属機関所長	学習	注意・集中	社会性	運動	視覚	聴覚	言語	身体	生活	健康	食生活	家庭	1																	2																	3																
所属機関名	名前			該当するものに○をつける														併設	所属機関所長																																																													
		学習	注意・集中	社会性	運動	視覚	聴覚	言語	身体	生活	健康	食生活	家庭																																																																			
1																																																																																
2																																																																																
3																																																																																
取組に主として携わった者(所属/人数)	教育委員会(参事1名、係長1名、主事1名)、保健福祉課子ども支援センター(次長1名)、小学校(特別支援教育コーディネーター7名)、通級指導教室(教諭3名)、認定こども園(園長1名、教諭1名)、公立保育園(園長1名、次長1名)計18名																																																																															
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネーター会議において、初めて「幼保小部会」を開催したことにより、今後のよりよい引継ぎに向けて、幼児教育施設の保育者と小学校の教員が相互に協議することを通して、新たな引継ぎの形を検討することができた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>項目を追加した新たな「状態像フォーカスシート」を用いた引継ぎは、今後実施予定のため、実施後に関係機関で引継ぎ内容等について協議する必要がある。</li> </ul>																																																																															

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	上川管内 音威子府村
取組事項（テーマ）	幼児センター、小・中学校、高等学校が連携した交流活動
地域の実情と取組のねらい	<p>幼児センター1園、小・中学校（併置校）1校、高等学校1校であり、幼児及び児童生徒が共に活動する機会を設定することにより、異校種間の交流を深めることをねらいとする。</p>
取組内容	<p>1 幼児教育施設の保育者と小・中学校、高等学校の教員との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音威子府村推進協議会を年4回開催し、連携部会において、幼児センター、小・中学校及び高等学校の交流の在り方について検討している。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の中でも、幼児及び児童生徒の交流の機会をできるだけ設定することができるよう、新たな取組の形を検討しながら進めている。</li> </ul> <p>2 幼児と児童生徒の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校第2学年生活科「秋パーティーをしよう」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児（年少・年中・年長）を招待し、小学校第2学年の児童が作成した手作りおもちゃと一緒に遊ぶ取組を行った。</li> </ul> </li> <li>○ 幼小中合同運動会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と児童生徒と一緒に、開会式での応援合戦や「ダンシング玉入れ」、「幼小中紅白リレー」等の種目を行った。</li> </ul> </li> <li>○ 交通安全啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と小・中学校の児童生徒、高等学校の生徒が作業を分担し、交通安全啓発のキーホルダーを製作した。完成品は、音威子府駐在所長に手渡され、名寄警察署による交通安全啓発活動の際に活用された。</li> </ul> </li> </ul>
取組に主として携わった者(所属/人数)	<p>幼児センター(園長1名、教諭2名)、小・中学校(教頭1名、教務主任1名、特別支援教育コーディネーター1名、生徒指導部1名)、高等学校(教頭1名、教諭3名)、保健福祉センター(保健師1名)、教育委員会(係長1名)、音威子府駐在所長(所長1名) 計14名</p>
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の児童にとっては、幼児と交流することにより、自分の成長を感じる機会となったり、幼児に対する思いやりの態度を育んだりすることにつながった。</li> <li>・幼児センターの幼児にとっては、小学校の学習に参加したり、合同の行事を行ったりしたことにより、小学校の学びをイメージすることにつながった。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の発達の段階を踏まえると、幼児から進んで児童生徒とコミュニケーションを取ることは難しいことから、交流の在り方について事前に打合せをする必要がある。</li> </ul>






【秋パーティーにおける交流】



【運動会における交流】

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	留萌管内 増毛町
取組事項（テーマ）	就学前児童生徒情報連絡会議の取組について
地域の実情と取組のねらい	<p>次年度就学を迎える認定こども園の園児が、学校訪問や学校給食を体験することにより、小学校の様子を知り、学校生活への円滑な適応を図る。</p>
取組内容	<p><b>【学校訪問・給食体験】</b>          認定こども園の園児が小学校を訪問し、児童との交流活動を行い、給食体験を行う。令和3年度は第1学年が手づくりのおもちゃを用意して出迎え、交流を深めた。給食では調理の様子を見学し、カレーを試食した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【園児がおもちゃをもらう様子】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【給食づくりを見学する様子】</p> </div> </div> <p><b>【幼小授業交流】</b>          こども園の職員は小学校の授業を参観し、卒園後の園児の様子を観察したり、小学校の教育内容への理解を深めた。小学校の教職員は、こども園の教育・保育活動の内容や幼児の実態を把握することで、受入体制の充実へとつなげている。</p> <div style="text-align: right;">  <p>【給食を試食する様子】</p> </div>
成果・課題	<p><b>〔成果〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認定こども園から小学校、中学校まで、町内は全て1校ずつであることから、学級の仲間が変わらないため、安心感を持って入学している。また、令和3年は、町において「就学前児童生徒情報連絡会議」を立ち上げ、特別な配慮を必要とする子どもに対する支援についての共通理解を図っている。</li> </ul> <p><b>〔課題〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流については、認定こども園と小学校の日課や勤務時間が異なるため、保育を継続する係分担や時間調整が難しく、教職員・保育教諭への負担とならない取組の在り方を検討する必要がある。</li> </ul>



## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	留萌管内 苫前町
取組事項（テーマ）	支援検討会議による円滑な引継ぎ
地域の実情と取組のねらい	<p>本町では、様々な特性に応じた指導や支援が多様化していることから、苫前町地域教育協議会特別支援教育地域連携専門部会を設置し、地域における特別支援教育に関する共通認識と、幼児・児童生徒に対する適切な支援体制等の調整を図ることを目的にした支援検討会議を開催することにより、円滑な引継ぎが行われることをねらいとする。</p>
取組内容	<p>苫前町では、次年度に小学校に入学する児童について円滑な接続を行うため、関係者が集まって情報共有を図る支援検討会議を開催しています。</p> <p>支援検討会議には、認定こども園の園長と担任、特別支援コーディネーターを含む小学校の教員、発達支援センター職員、町教育相談員（養護学校教員）、保健師、教育委員会が参加し、情報共有を行うことにより、次年度の入学に向けて共通理解を図っています。</p> <p>苫前町は苫前地区、古丹別地区に小学校が各1校あり、地区ごとに支援検討会議を開催しています。毎年、地区ごとに各10名程度の入学児童がいることから、一人一人の学習面や生活面の情報について丁寧に引継ぎを行うことができ、入学後の適切な支援や指導につながっています。</p>
取組に主として携わった者(所属/人数)	町教育委員会(課長1名、主査1名)、町保健福祉課課(保健師長1名)、小学校(教頭、教務主任、特別支援教育コーディネーター)、認定こども園(園長、担任)、町教育相談員、発達支援センター職員、計11名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学前に支援検討会議を開催することにより、特別な支援が必要な児童のほか、他の児童についても発達や特性等を共有することで、円滑な引継ぎができています。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より効果的な引継ぎを行うため、町独自のチェックシートの作成について検討する必要がある。</li> </ul>